夢に向かって

人を笑顔にする調理師になりたい――

秦　雫月（しずく）さん（県北中３年）　第34回

私の将来の夢は、人を笑顔にする調理師になることです。特にディズニーホテルの調理師になって、多くの人に幸せな時間を提供することが目標です。

小さい頃から「ものづくり」が好きで、DIYや工作などに夢中になってきました。その延長で料理に挑戦した際、家族に「おいしい」と喜んでもらえたことがきっかけで、調理師を目指すようになりました。

現在は調理師を目指す高校への進学が決まっており、入学までの間、調理の基礎を自分なりに学んでいます。また、高校では、国語や数学などの授業もあるので、中学の勉強を復習して、入学後スムーズに授業についていけるよう準備しています。

夢が実現したら、想像力豊かな調理師になりたいです。ディズニーリゾートは、夢の世界を提供する特別な場所です。その場所で提供する料理が、お客様の笑顔につながるように、お客様の気持ちを想像しながら調理して行きたいと思っています。

また、礼儀正しい大人にもなりたいです。言葉遣いや発言など人としての基本を大切にしながら、子ども心や遊び心を忘れずに、何事にもチャレンジできる人でありたいです。これからも努力を続け、夢の実現に向けて一歩ずつ進んでいきたいです。

国見の民話 かるた

【第二十二回】
大喰いよもぎだ八太郎

【二升飯　ぺろりと食べる　八太郎】

昔、大食いで有名な蓬田八太郎という男がいて、背丈が五尺二寸（一・五六㍍）くらいの小柄な人でした。

この辺りでも大食い大会のような催し物があり、その頃のルールは食べる人と見物人とが食べきれるかどうかを賭けていました。見物人は、八太郎がまさか二升飯を食べきれないと読み、二十円を賭けました。一日の手間賃が男二十七銭、女二十銭の時代で、二十円となれば今の百万円くらいになります。

そこで、米を量る人が袖に七合ばかり隠して、二升七合を炊き上げましたが、八太郎はぺろりと平らげてしまったそうです。

また、一升ますに山盛りに積まれたあめ玉も、すべて食べて、掛け金十円を一人勝ちしたとか。やる事すべて八太郎にとられるので、八太郎とは誰も賭けをしなくなったそうです。

ちなみに八太郎は、ばくちが好きで、賭けで得た金はばくちに消え、年中貧乏していたそうです。

編集発行　国見町
VEGETABLE OIL INK
UD FONT

〒969-1792　福島県伊達郡国見町大字藤田字一丁田二1-7
TEL 024-585-2111　FAX 024-585-2181
E-mail somu@town.kunimi.fukushima.jp　URL www.town.kunimi.fukushima.jp/